

# 人生100年時代の結婚に関する意識と実態

株式会社明治安田生活福祉研究所（社長 木島 正博）は、2018年6月に全国の40～64歳の男女12,000人を対象として、「人生100年時代に向けた意識調査」を実施しました。

「人生100年時代」を目前に控えた今日、家族や夫婦のあり方、結婚に対する意識も変化し、多様化しています。本リリースでは、結婚やパートナーに求める意識と実態について最新の状況をご紹介します。

## < 主な内容 >

<p><b>7</b> ページ 未婚化に打つ手はあると思う割合</p> <table border="1"> <tr> <td>子どもがいる既婚者</td> <td>男性 6割 女性 5割</td> </tr> <tr> <td>未婚者</td> <td>男性 4割 女性 3割</td> </tr> </table>	子どもがいる既婚者	男性 6割 女性 5割	未婚者	男性 4割 女性 3割	<p><b>9</b> ページ 結婚生活に「とても満足」の割合</p> <table border="1"> <tr> <td>子どもがいる既婚者</td> <td>男性 2～3割 女性 2割</td> </tr> <tr> <td>子どもがいない既婚者</td> <td>男性 3～4割 女性 3割</td> </tr> </table>	子どもがいる既婚者	男性 2～3割 女性 2割	子どもがいない既婚者	男性 3～4割 女性 3割	<p><b>11</b> ページ 今も離婚を考えたことがある割合 【子どもがいる共働き夫婦（ともに正社員）】</p> <table border="1"> <tr> <td>男性</td> <td>3割</td> </tr> <tr> <td>女性</td> <td>4割</td> </tr> </table>	男性	3割	女性	4割
子どもがいる既婚者	男性 6割 女性 5割													
未婚者	男性 4割 女性 3割													
子どもがいる既婚者	男性 2～3割 女性 2割													
子どもがいない既婚者	男性 3～4割 女性 3割													
男性	3割													
女性	4割													
<p><b>12</b> ページ 結婚生活の不満 離婚理由のトップ</p> <p>「性格・価値観の不一致」</p> <table border="1"> <tr> <td>男性</td> <td>5～6割</td> </tr> <tr> <td>女性</td> <td>4～5割</td> </tr> </table>	男性	5～6割	女性	4～5割	<p><b>16</b> ページ 卒婚に肯定的な割合</p> <table border="1"> <tr> <td>男性</td> <td>5～6割</td> </tr> <tr> <td>女性</td> <td>7～8割</td> </tr> </table>	男性	5～6割	女性	7～8割	<p><b>17</b> ページ 結婚のメリット</p> <table border="1"> <tr> <td>男性</td> <td>「精神的安定」 「好きな相手と共に暮らせること」</td> </tr> <tr> <td>女性</td> <td>「経済的安定」 「精神的安定」</td> </tr> </table>	男性	「精神的安定」 「好きな相手と共に暮らせること」	女性	「経済的安定」 「精神的安定」
男性	5～6割													
女性	4～5割													
男性	5～6割													
女性	7～8割													
男性	「精神的安定」 「好きな相手と共に暮らせること」													
女性	「経済的安定」 「精神的安定」													
<p><b>20</b> ページ 長寿化が進む中で、配偶者やパートナーに求めるものトップ</p> <table border="1"> <tr> <td>「ともに老後を生きていくパートナーとしての役割」</td> <td>男女ともに 6～7割</td> </tr> </table>	「ともに老後を生きていくパートナーとしての役割」	男女ともに 6～7割	<p><b>21</b> ページ 現在幸せである割合</p> <table border="1"> <tr> <td>既婚者</td> <td>男女ともに 8割</td> </tr> <tr> <td>未婚者、離別・死別者</td> <td>男性 5割 女性 7割</td> </tr> </table>	既婚者	男女ともに 8割	未婚者、離別・死別者	男性 5割 女性 7割	<p><b>22</b> ページ 幸福度に大きな影響があるもの</p> <table border="1"> <tr> <td>既婚者</td> <td>「家族との人間関係」 男性 5割・女性 6割</td> </tr> <tr> <td>未婚者</td> <td>男性「収入」4割 女性「健康」5割</td> </tr> </table>	既婚者	「家族との人間関係」 男性 5割・女性 6割	未婚者	男性「収入」4割 女性「健康」5割		
「ともに老後を生きていくパートナーとしての役割」	男女ともに 6～7割													
既婚者	男女ともに 8割													
未婚者、離別・死別者	男性 5割 女性 7割													
既婚者	「家族との人間関係」 男性 5割・女性 6割													
未婚者	男性「収入」4割 女性「健康」5割													

ご照会先

株式会社明治安田生活福祉研究所  
生活設計研究部  
力石(カキイシ)・木下川(キノカワ)・高橋

電話：03(6261)6411 FAX：03(3511)3200

Eメール：  
[chikaraishi@myilw.co.jp](mailto:chikaraishi@myilw.co.jp)  
[hi-kinogawa@myilw.co.jp](mailto:hi-kinogawa@myilw.co.jp)  
[h-takahashi@myilw.co.jp](mailto:h-takahashi@myilw.co.jp)

＜ 調査の概要 ＞

- (1) 調査対象： 全国の40～64歳の男女。  
ただし、質問により対象の年齢層が異なる場合があります。
- (2) 調査方法： WEB アンケート調査（株式会社クロスマーケティング登録モニター対象）
- (3) 調査時期： 2018年6月9日～6月10日
- (4) 回収数： 12,000人
- (5) サンプルの属性

		現在、配偶者がいる人		現在、配偶者がいない人		計
				結婚経験なし	離婚・死別 経験あり	
		子どもあり	子どもなし	子どもなし		
40～44歳	男性	300	300	300	300	1,200
	女性	300	300	300	300	1,200
45～49歳	男性	300	300	300	300	1,200
	女性	300	300	300	300	1,200
50～54歳	男性	300	300	300	300	1,200
	女性	300	300	300	300	1,200
55～59歳	男性	300	300	300	300	1,200
	女性	300	300	300	300	1,200
60～64歳	男性	300	300	300	300	1,200
	女性	300	300	300	300	1,200
計		3,000	3,000	3,000	3,000	12,000

(6) サンプル数について

この調査では、上記の属性ごとに相当数のサンプルを収集して分析を行なうことを目的としています。そのため、当資料では人口比などによる補正は行なっておりません。

## <目 次>

### I. 未婚化に対する意識

1. 未婚化に対する意識..... 5 ページ
  - ◎ 未婚化の主な理由や背景として、考えられているトップは  
「結婚を望まない人が増えてきたから」 男性 5 割・女性 6～7 割
  - ◎ 未婚化の進行に打つ手はあるか
    - ・「解決すべきで、打つ手はあるはず」子どもがいる既婚の男性 6 割・女性 5 割
    - ・「未婚化の進行は止められない」未婚男性 6 割・女性 7 割
2. これからの結婚に対する気持ち..... 8 ページ
  - ◎ 40～64 歳のこれからの結婚に対する気持ち  
未婚者の 4 割が「あきらめている」、2 割が「独身主義」

### II. 既婚者の意識

1. 結婚生活の満足度..... 9 ページ
  - ◎ 結婚生活に「とても満足」の割合
    - ・子どもがいる男性 2～3 割・女性 2 割  
子どもがいない男性 3～4 割・女性 3 割
    - ・子どもがおらず、夫婦とも正社員で働く世帯が最も高く、男性 4 割・女性 3 割
2. 結婚への不満・離婚..... 11 ページ
  - ◎ 今も離婚を考えることがある割合
    - ・子どもがいて夫婦とも正社員で働く男性 3 割・女性 4 割
    - ・子どもがいない夫婦は男女とも 1～2 割
  - ◎ 結婚生活に不満な点や離婚理由
    - ・「性格・価値観の不一致」がトップ 男性 5～6 割・女性 4～5 割
    - ・今も離婚を考えている人ほど「性格・価値観の不一致」を感じている
3. 定年離婚..... 14 ページ
  - ◎ 定年離婚を考えたことがある理由のトップ
    - ・男性「愛情を感じられない・感じない」
    - ・女性「定年退職後に毎日一緒に生活するのは耐えられない」
4. 卒婚..... 16 ページ
  - ◎ 「卒婚」に肯定的な割合 男性 5～6 割・女性 7～8 割

### Ⅲ. 結婚に求めるもの

#### 1. 40～64歳の男女が考える結婚のメリットとは.....17 ページ

##### ◎ 結婚のメリット

- ・ 男性の考えるメリットは「精神的安定」「好きな相手と共に暮らせること」
- ・ 女性の考えるメリットは「経済的安定」「精神的安定」
- ・ 子どもがいる既婚者の考えるメリットは「子どもをもうけられること」男性 31.7%・女性 24.3%

#### 2. 長寿化が進む中で、配偶者やパートナーに求めるもの.....18 ページ

##### ◎ 結婚に最低限求められる役割とは？

- ・ 「出産・子育てという家族形成」  
子どもがいる男性 5 割・女性 4 割、子どもがいない男性 3 割・女性 2～3 割
- ・ 「経済的な安定」男性 4 割・女性 5～6 割
- ・ 「相談相手や癒しとなる人間関係の場」男性 3 割・女性 3～4 割

##### ◎ 配偶者やパートナーに求めるものトップは

- 「ともに老後を生きていくパートナーとしての役割」男女ともに 6～7 割

#### 3. 幸福度について.....21 ページ

##### ◎ 現在の幸福度

- ・ 既婚男女 8 割
- ・ 未婚と離別・死別の男性 5 割・女性 7 割

##### ◎ 幸福度に大きな影響があるもの

- 既婚者は「家族との人間関係」が男性 5 割・女性 6 割でトップ

## I. 未婚化に対する意識

### 1. 未婚化に対する意識

- ◎ 未婚化の主な理由や背景として、考えられているトップは「結婚を望まない人が増えてきたから」男性5割・女性6～7割
- ◎ 未婚化の進行に打つ手はあるか
  - ・「解決すべきで、打つ手はあるはず」子どもがいる既婚の男性6割・女性5割
  - ・「未婚化の進行は止められない」未婚男性6割・女性7割

#### ➤ 未婚化の主な理由や背景として、考えられているトップは

「結婚を望まない人が増えてきたから」男性5割・女性6～7割

我が国の生涯未婚率は、男性23.4%・女性14.1%（2015年時点）となっており、結婚しない人の割合は今後もさらに高くなっていくと予想されています（注）。

（注）生涯未婚率とは、50歳時点で一度も結婚したことのない人の割合。国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集（2018年版）」をもとに作成。

そこで、40～64歳の男女に、未婚化の主な理由や背景についてどのように考えるかたずねたところ、「結婚はあくまでも選択肢のひとつであって、結婚を望まない人が増えてきたから」と考えている割合が配偶者の有無にかかわらず男女ともに最も高く、子どもがいる既婚男性49.1%、子どもがいない既婚男性52.3%、未婚男性50.4%、離別・死別男性50.7%と男性約5割で、子どもがいる既婚女性58.2%、子どもがいない既婚女性65.8%、未婚女性63.6%、離別・死別女性61.1%と女性6～7割となっています。

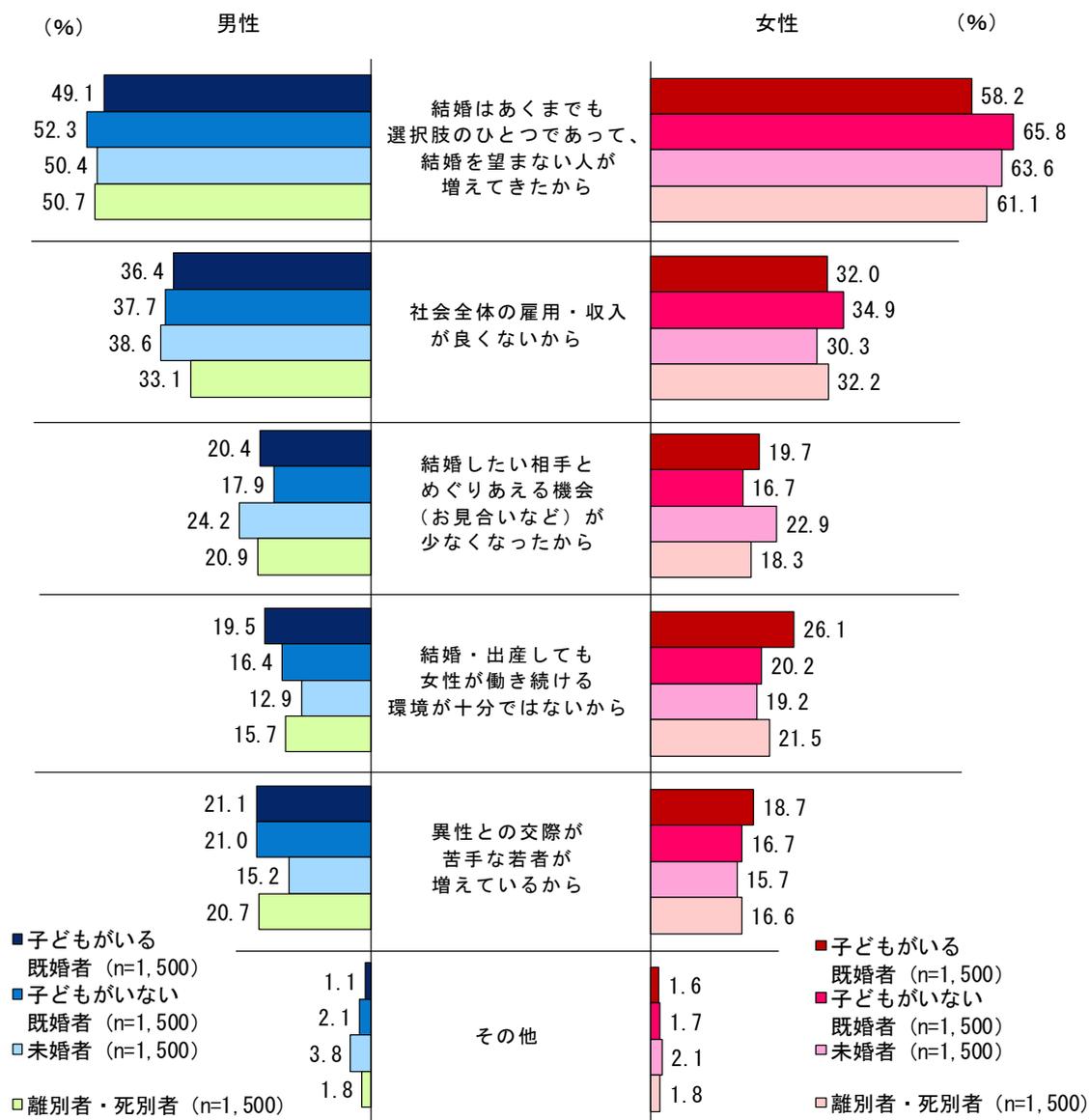
次いで、「社会全体の雇用・収入が良くないから」と考える人が、子どもがいる既婚男性36.4%、子どもがいない既婚男性37.7%、未婚男性38.6%、離別・死別男性33.1%と男性3～4割で、子どもがいる既婚女性32.0%、子どもがいない既婚女性34.9%、未婚女性30.3%、離別・死別女性32.2%と女性約3割で続きます。

また、未婚者では男女ともに「結婚したい相手とめぐりあえる機会（お見合いなど）が少なくなったから」が既婚者や離別・死別者よりもやや高くなっています（未婚男性24.2%・未婚女性22.9%）。

さらに、子どもがいる既婚女性では「結婚・出産しても女性が働き続ける環境が十分ではないから」が26.1%で、子どもがいない既婚女性（20.2%）、未婚女性（19.2%）、離別・死別女性（21.5%）よりも高くなっています（図表1）。

図表1 未婚化の主な理由や背景についてどのように考えるか

(40～64歳の男女：既婚者は子どもの有無別・2つ以内で回答)



➤ 未婚化の進行に打つ手はあるか

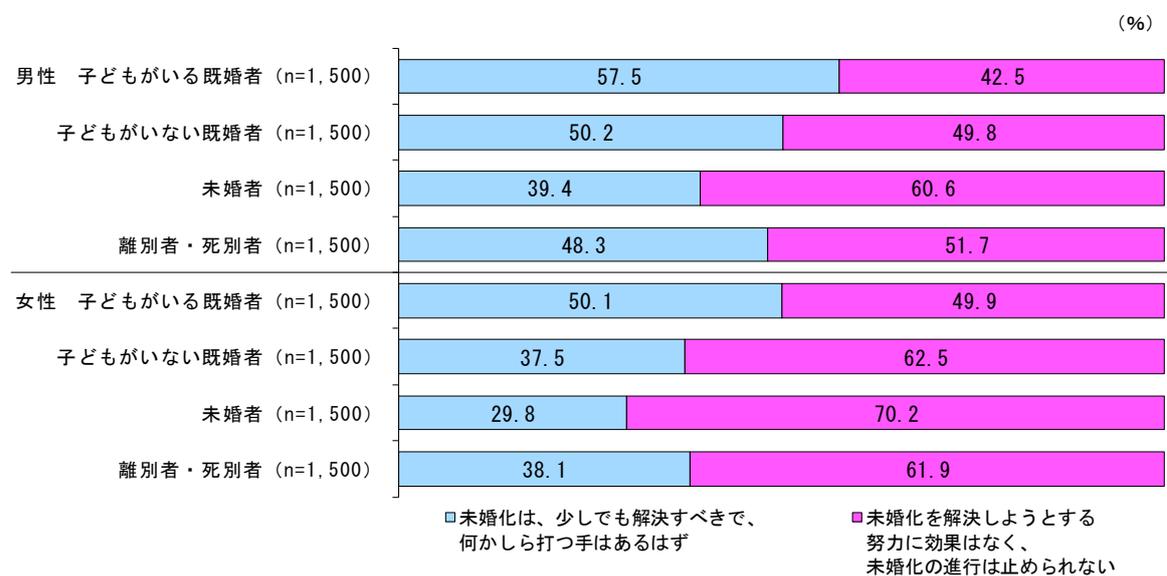
子どもがいる既婚の男性6割・女性5割が「解決すべきで、打つ手はあるはず」  
一方で、未婚男性6割・女性7割が「未婚化の進行は止められない」

40～64歳の男女に、未婚化の進行についてたずねたところ、「未婚化は、少しでも解決すべきで、何かしら打つ手はあるはず」と考える人の割合は、男女ともに子どもがいる既婚者で最も高くなっています（子どもがいる既婚の男性57.5%・女性50.1%）。

一方、未婚者では「未婚化を解決しようとする努力に効果はなく、未婚化の進行は止められない」と考える人の割合のほうが高くなっています（未婚男性60.6%・未婚女性70.2%）。

また、女性は男性よりも未婚化の進行は止められないと考える割合が高く、男性は4～6割であるのに対して、女性は5～7割となっています（図表2）。

図表2 未婚化の進行についてどう考えるか（40～64歳の男女：既婚者は子どもの有無別）



## 2. これからの結婚に対する気持ち

◎ 40～64歳のこれからの結婚に対する気持ち  
未婚者の4割が「あきらめている」、2割が「独身主義」

### ➤ 未婚男女「あきらめている」は4割、「絶対結婚したくない（独身主義）」は2割

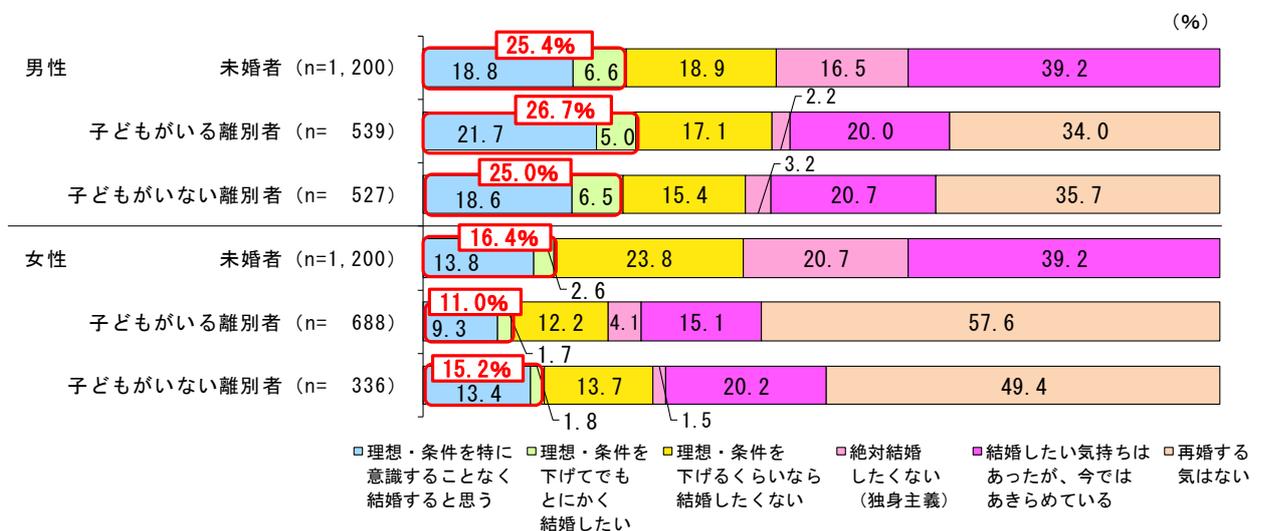
40～64歳の未婚者・離別者にこれからの結婚に対する気持ちをたずねたところ、理想・条件に過度にこだわることなく結婚したいと思う割合（「理想・条件を特に意識することなく結婚すると思う」+「理想・条件を下げてでもとにかく結婚したい」）は、男性では未婚者・離別者ともに約3割、女性では1～2割で、男性のほうが女性よりも結婚志向が高くなっています。特に、子どもがいる離別者については、男性26.7%であるのに対し、女性11.0%と15.7ポイント低くなっています。

未婚者では、「結婚したい気持ちはあったが、今ではあきらめている」が男女ともに39.2%で最も高く、また「絶対結婚したくない（独身主義）」も男性16.5%・女性20.7%で、結婚に消極的な割合が約6割となっています。

離別者では「再婚する気はない」が男女ともに最も高く、男性よりも女性のほうが高くなっています（子どもがいる離別の男性34.0%・女性57.6%、子どもがいない離別の男性35.7%・女性49.4%）。「再婚する気はない」に「あきらめている」まで含めると、離別者では男性5～6割・女性約7割が結婚に消極的な割合となっています（図表3）。

図表3 これからの結婚に対する気持ち

（40～64歳の未婚者・離別者：離別者は子どもの有無別）



## Ⅱ. 既婚者の意識

### 1. 結婚生活の満足度

#### ◎ 結婚生活に「とても満足」の割合

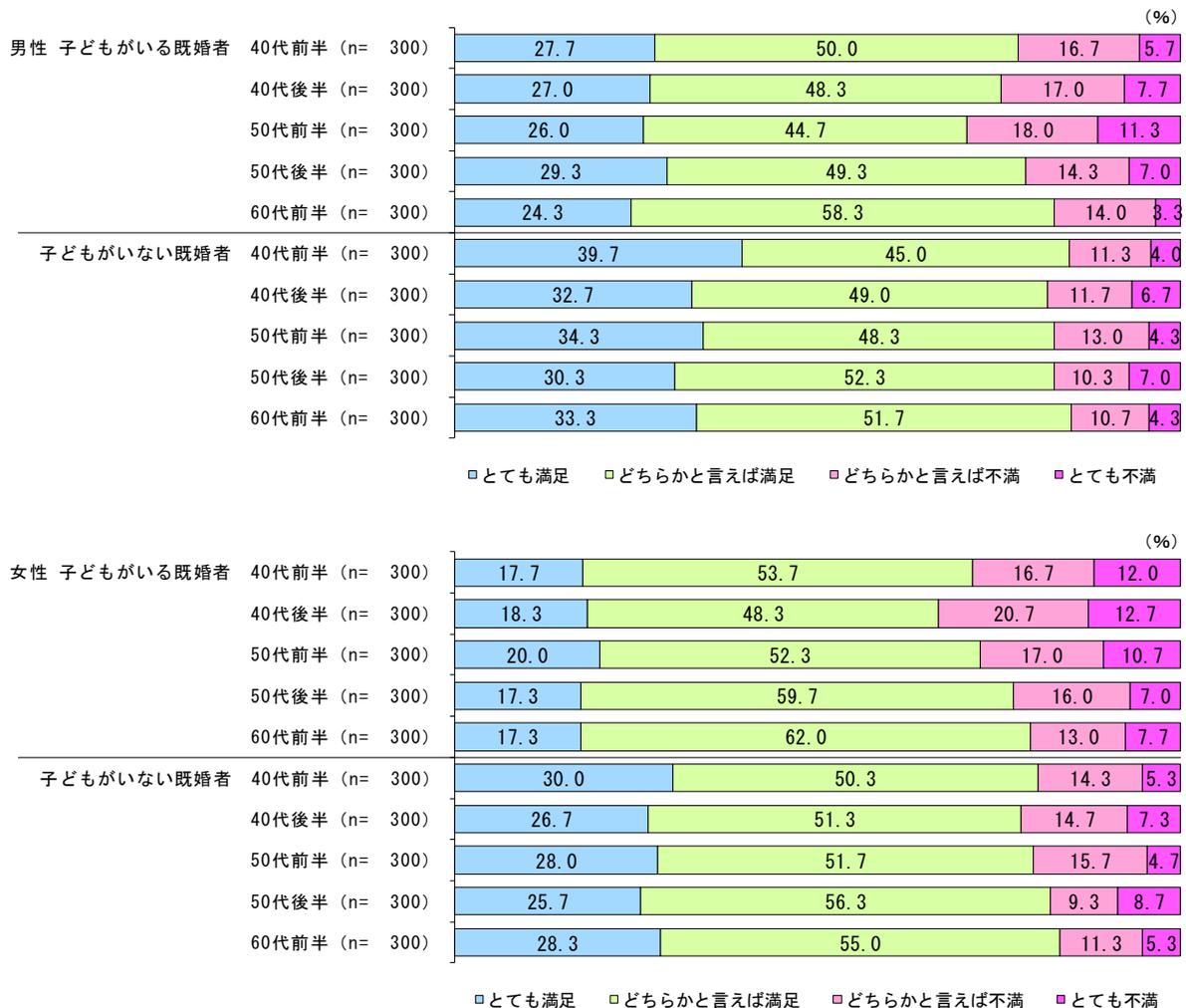
- ・ 子どもがいる男性 2～3割・女性 2割
- ・ 子どもがいない男性 3～4割・女性 3割
- ・ 子どもがおらず、夫婦とも正社員で働く世帯が最も高く、男性 4割・女性 3割

#### ➤ 子どもがいる男女 7～8割・子どもがいない男女 8割が、結婚生活に満足

40～64歳の既婚者について、結婚生活に満足している割合（「とても満足」＋「どちらかと言えば満足」）を子どもの有無別にみると、年齢層にかかわらず、子どもがいる男女の7～8割・子どもがいない男女の約8割が結婚生活に満足している様子がうかがえます。

また、結婚生活に「とても満足」の割合は、子どもがいる男性約2～3割・女性約2割、子どもがいない男性3～4割・女性約3割で、特に40代前半の子どもがいない既婚男性39.7%が目立っています（図表4）。

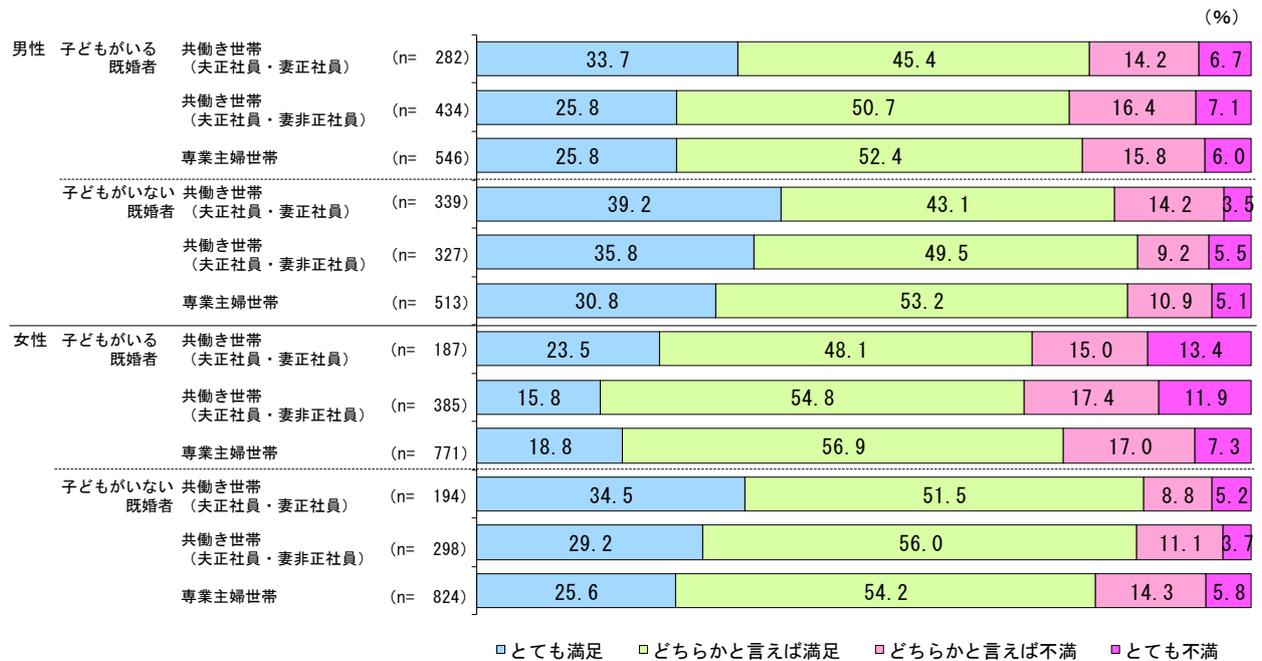
図表4 結婚生活に満足しているか（40～64歳の既婚者：子どもの有無別）



➤ **子どもがおらず、夫婦とも正社員で働く共働き世帯の結婚生活満足度が最も高い**

さらに、結婚生活の満足度について、子どもの有無別に加えて夫婦の働き方別でもみると、「とても満足」の割合は、夫婦とも正社員の世帯が男女ともに最も高くなっています。また、子どもがいない既婚者のほうが子どもがいる既婚者よりも高く、夫婦とも正社員で子どもがいない世帯では、男性 39.2%・女性 34.5%となっています（図表 5）。

図表 5 結婚生活に満足しているか（40～64 歳の既婚者：子どもの有無と夫婦の働き方別）



## 2. 結婚への不満・離婚

### ◎ 今も離婚を考えたことがある割合

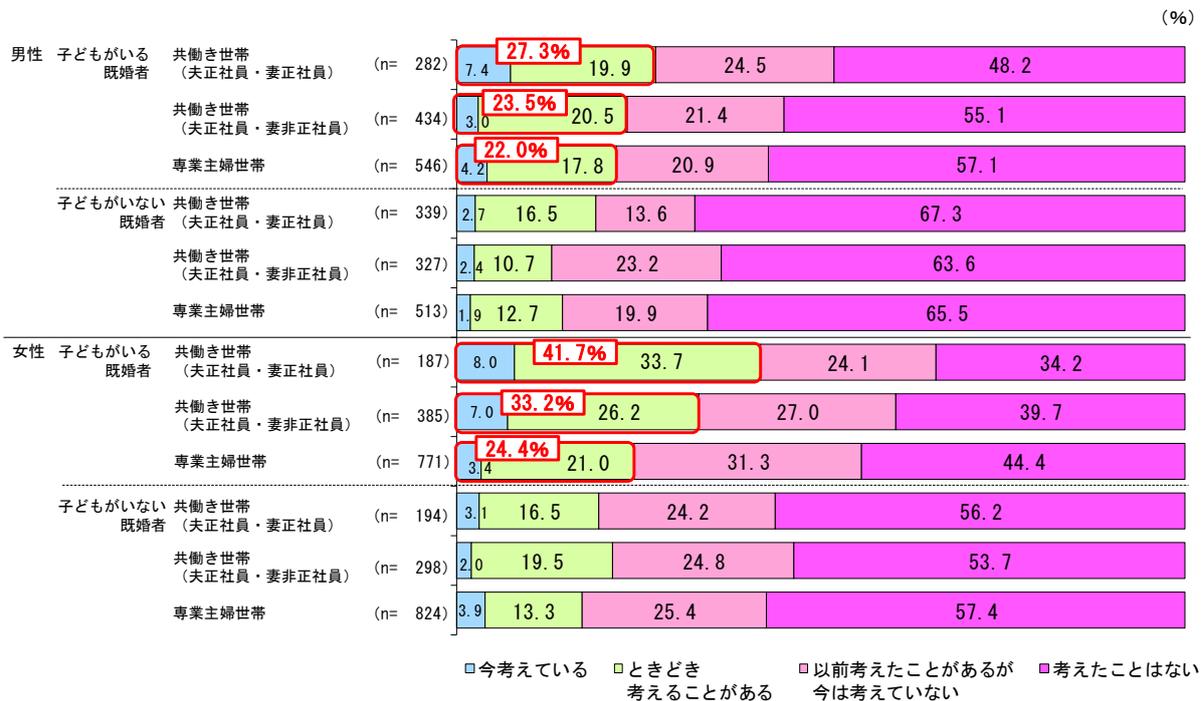
- ・子どもがいて夫婦とも正社員で働く男性3割・女性4割
- ・子どもがいない夫婦は男女とも1～2割

#### ➤ 子どもがいて夫婦とも正社員で働く男性3割・女性4割が、今も離婚を考えたことがある

40～64歳の既婚者について、今も離婚を考えている割合（「今考えている」＋「ときどき考えることがある」）を子どもの有無と夫婦の働き方別にみると、子どもがいて夫婦とも正社員で働く女性が最も高くなっています（41.7%）。子どもがいて非正社員で働く女性についても33.2%で、子どもがいて専業主婦の女性は24.4%となっています。子どもがいない女性は、子どもがいる女性よりも今も離婚を考えている割合は低く、夫婦の働き方にかかわらず約2割にとどまります。

男性も同様の傾向で、今も離婚を考えている割合は、子どもがいて夫婦とも正社員で働く男性が最も高く（27.3%）、子どもがいて妻が非正社員の男性（23.5%）、子どもがいて妻が専業主婦の男性（22.0%）と続きます。また、子どもがいない男性は、子どもがいる男性よりも今も離婚を考えている割合は低く、夫婦の働き方にかかわらず1～2割にとどまります（図表6）。

図表6 離婚を考えたことがあるか（40～64歳の既婚者：子どもの有無と夫婦の働き方別）



◎ 結婚生活に不満な点や離婚理由

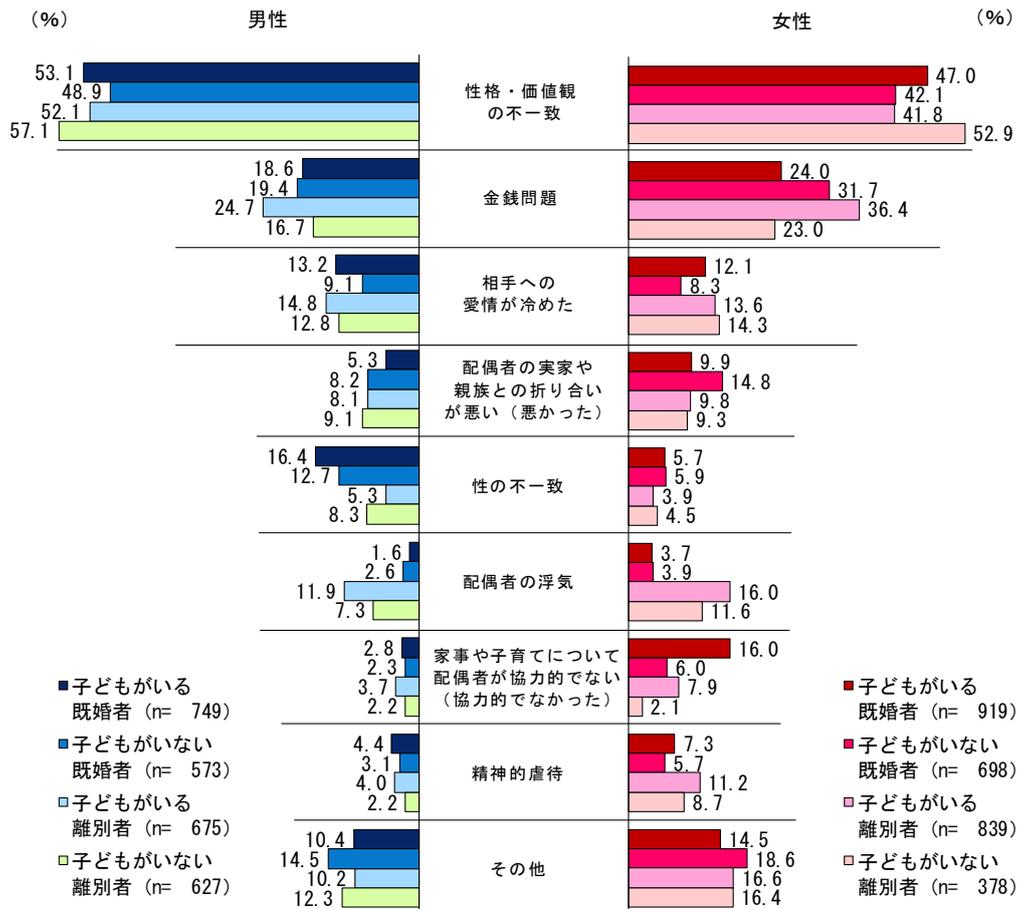
- ・「性格・価値観の不一致」がトップ 男性5～6割・女性4～5割
- ・今も離婚を考えている人ほど「性格・価値観の不一致」を感じている

➤ 結婚生活に不満な点や離婚理由のトップは「性格・価値観の不一致」

結婚生活に不満を感じたり、離婚を考えた（離婚した）ことがある40～64歳の既婚者には不満な点を、そして離別者には離婚理由をたずねたところ、「性格・価値観の不一致」の割合が男性5～6割・女性4～5割と、子どもの有無や既婚・離別にかかわらず男女ともに最も高くなっています。次いで「金銭問題」が男性では約2割、女性では2～4割で続きます。また、「金銭問題」は男女ともに子どもがいる離別者で最も高く、男性24.7%・女性は36.4%となっています。

なお、子どもがいる既婚女性では「家事や子育てについて配偶者が協力的でない（協力的でなかった）」が不満点として特徴的です（16.0%）（図表7）。

図表7 結婚生活に不満な点・離婚理由（結婚生活に不満を感じたり、または離婚を考えた（離婚した）ことのある40～64歳の既婚者・離別者：子どもの有無別・2つ以内で回答）

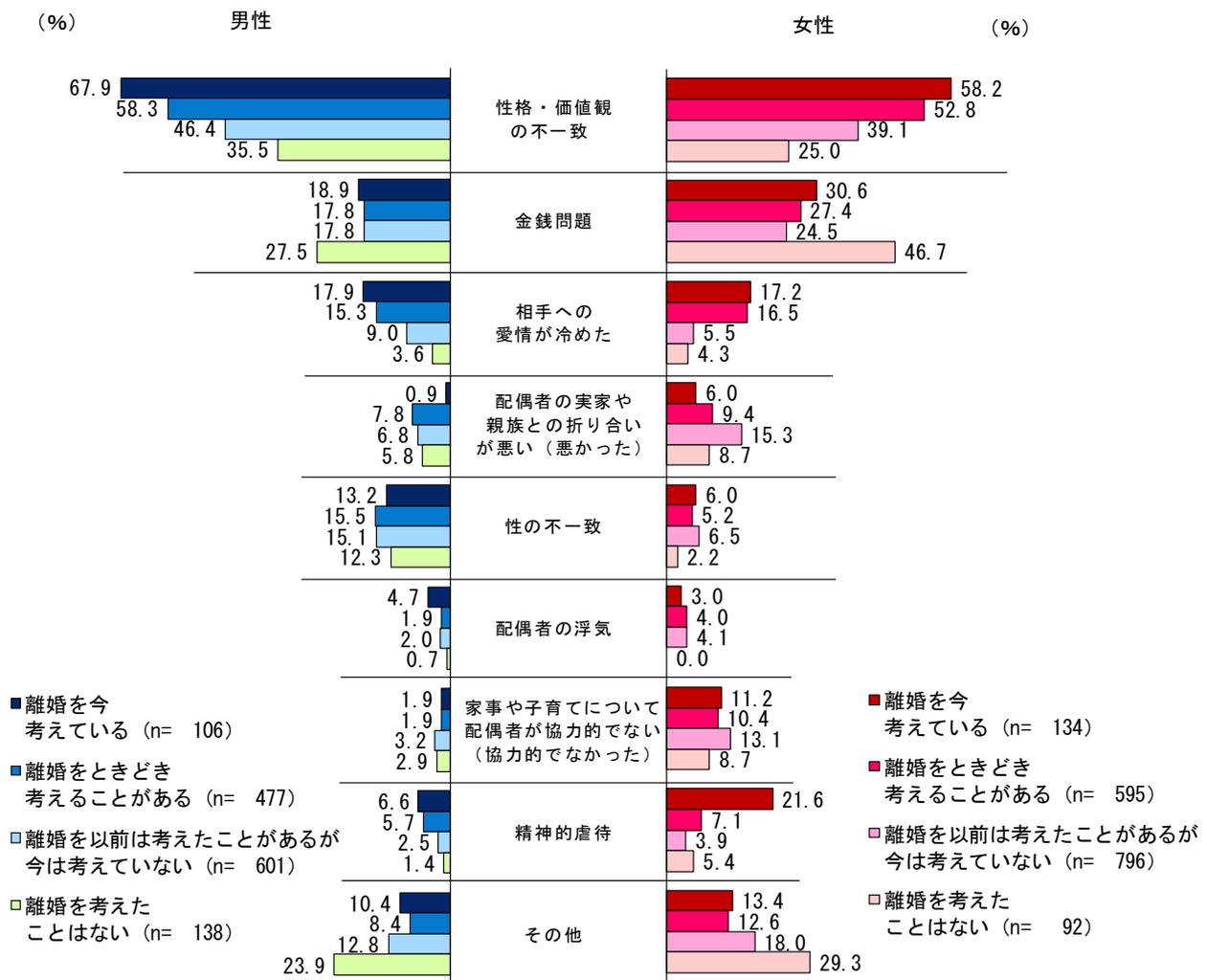


➤ **今も離婚を考えている人ほど「性格・価値観の不一致」を感じている**

さらに、結婚生活に不満な点について、離婚を考えたことがある経験別にみると、男女とも今も離婚を考えている人ほど「性格・価値観の不一致」の割合が高く、離婚を今考えている男性 67.9%・女性 58.2%であるのに対し、離婚を考えたことはない男性 35.5%・女性 25.0%となっています。また、「性格・価値観の不一致」を感じている割合はいずれの場合も男性のほうが高くなっています。

一方で、結婚生活において「金銭問題」に不満を強く感じているものの、離婚までは考えたことのない女性の割合が高くなっています（男性 27.5%・女性 46.7%）（図表 8）。

図表 8 結婚生活に不満な点（結婚生活に不満を感じたり、または離婚を考えたことがある 40～64 歳の既婚者：離婚を考えたことがある経験別・2つ以内で回答）



### 3. 定年離婚

#### ◎ 定年離婚を考えたことがある理由のトップ

- ・ 男性「愛情が感じられない・感じない」
- ・ 女性「定年退職後に毎日一緒に生活するのは耐えられない」

#### ➤ 子どもがいる既婚の男性 2 割・女性 3 割が、定年を期に離婚を考えたことがある

40～64 歳の既婚者が自分や配偶者の定年を期に離婚しようと考えたことがある割合は、子どもがいる既婚の男性 19.6%・女性 28.1%、子どもがいない既婚者は男性 11.1%・女性 13.3%となっています。男女ともに子どもがいない場合よりも、子どもがいる場合のほうが高く、また男性よりも女性のほうが高くなっています。

#### ➤ 定年離婚を考えたことがある理由

定年を期に離婚しようと考えたことがある 40～64 歳の既婚者・離別者に、その理由をたずねました。

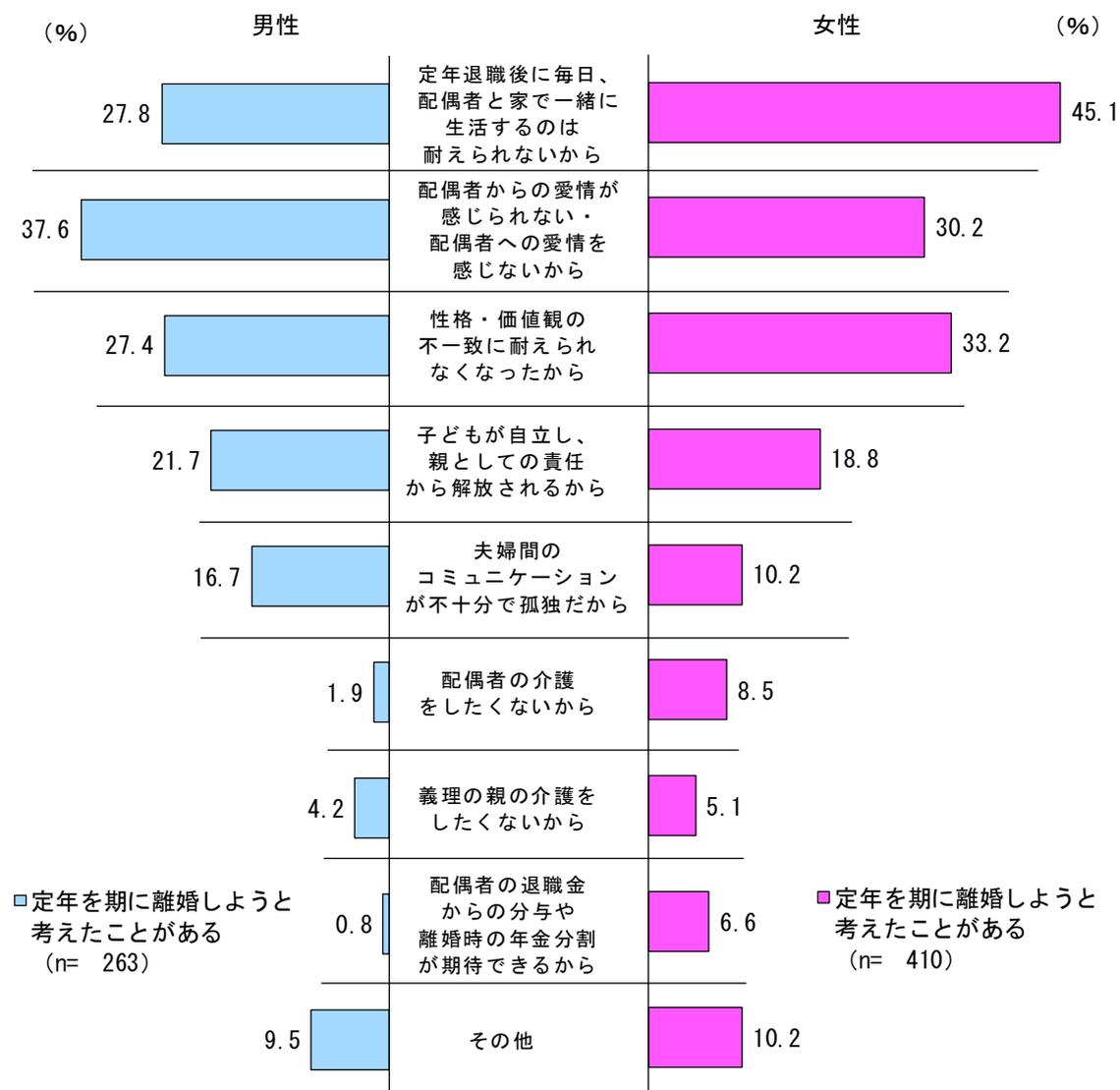
実際に定年離婚に至らずとも、定年を期に離婚しようと考えた理由としては、男性では「配偶者からの愛情が感じられない・配偶者への愛情を感じないから」(37.6%) が最も高く、「定年退職後に毎日、配偶者と家で一緒に生活するのは耐えられないから」(27.8%)、「性格・価値観の不一致に耐えられなくなったから」(27.4%) と続きます。

女性では「定年退職後に毎日、配偶者と家で一緒に生活するのは耐えられないから」(45.1%) が最も高く、「性格・価値観の不一致に耐えられなくなったから」(33.2%)、「配偶者からの愛情が感じられない・配偶者への愛情を感じないから」(30.2%) と続きます。

定年を期に離婚しようと考えた理由として、女性のほうが男性よりも割合が特に高いのは「定年退職後に毎日、配偶者と家で一緒に生活するのは耐えられないから」で 17.3 ポイント差であり、夫としては妻のこの思いに鈍感ではあってはいけないようです。この他「性格・価値観の不一致に耐えられなくなったから」5.8 ポイント差、「配偶者の介護をしたくないから」6.6 ポイント差、「配偶者の退職金からの分与や離婚時の年金分割が期待できるから」5.8 ポイント差となっています。一方、男性のほうが割合が高いのは「配偶者からの愛情が感じられない・配偶者への愛情を感じないから」7.4 ポイント差、「夫婦間のコミュニケーションが不十分で孤独だから」6.5 ポイント差となっています(図表 9)。

図表9 定年を期に離婚しようと思った理由

(定年を期に離婚しようと思ったことがある40～64歳の既婚者・離別者：2つ以内で回答)



## 4. 卒婚

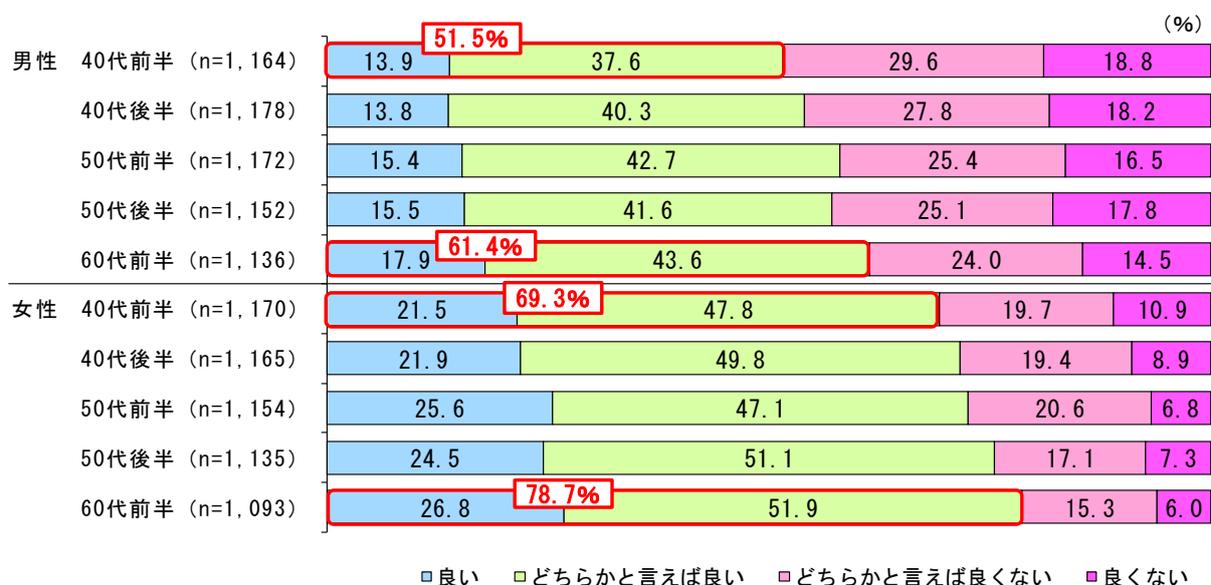
### ◎「卒婚」に肯定的な割合 男性5～6割・女性7～8割

#### ➤ 男性よりも女性のほうが「卒婚」に肯定的

40～64歳の男女に、卒婚（注）についてどう思うかたずねたところ、卒婚を良いと思う割合（「良い」＋「どちらかと言えば良い」）は、40代前半男性51.5%・女性69.3%であるのに対し、60代前半男性61.4%・女性78.7%と、年齢層が高いほど、また、女性のほうが男性よりも卒婚に肯定的な割合は高くなっています（図表10）。年齢層が高くなると離婚までは考えないものの、卒婚のように少し距離感をもって過ごすのがよいと思う人が増えるのかもしれない。

（注）本調査における卒婚とは、「離婚はしないが、配偶者に必要以上に干渉せずに自分のライフスタイルを楽しむ夫婦関係を営むこと」としています。

図表10 卒婚についてどう思うか（40～64歳の男女）



### Ⅲ. 結婚に求めるもの

#### 1. 40～64歳の男女が考える結婚のメリットとは

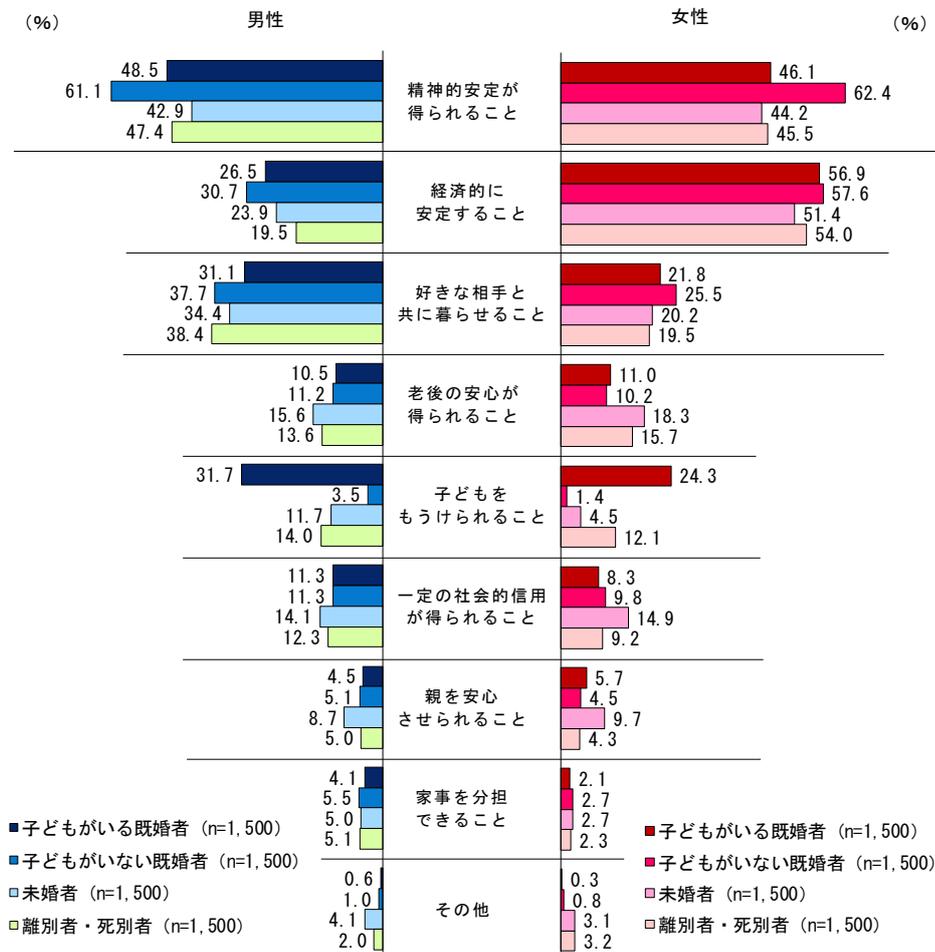
##### ◎ 結婚のメリット

- ・ 男性の考えるメリットは「精神的安定」「好きな相手と共に暮らせること」
- ・ 女性の考えるメリットは「経済的安定」「精神的安定」
- ・ 子どもがいる既婚者の考えるメリットは「子どもをもうけられること」男性 31.7%・女性 24.3%

#### ➤ 結婚のメリット…男性は「精神的安定」、女性は「経済的安定」

40～64歳の男女に、結婚のメリットをたずねたところ、男女ともに「精神的安定が得られること」の割合が高く、特に子どもがいない既婚者の男女では約6割で最も高くなっています(男性 61.1%・女性 62.4%)。子どもがいない既婚者以外の女性では、「経済的に安定すること」が最も高く、既婚者で約6割、未婚者と離別者・死別者で約5割です。男性では「好きな相手と共に暮らせること」の割合も高く3～4割となっています。また、子どもがいる既婚者では「子どもをもうけられること」が男性 31.7%・女性 24.3%と他の場合に比べて高く、子どもをもうけられることを結婚のメリットと考える人が多いようです(図表 11)。

図表 11 結婚のメリット (40～64歳の男女：既婚者は子どもの有無別・2つ以内で回答)



## 2. 長寿化が進む中で、配偶者やパートナーに求めるもの

### ◎ 結婚に最低限求められる役割とは？

・「出産・子育てという家族形成」

子どもがいる男性5割・女性4割、子どもがいない男性3割・女性2～3割

・「経済的な安定」男性4割・女性5～6割

・「相談相手や癒しとなる人間関係の場」男性3割・女性3～4割

### ◎ 配偶者やパートナーに求めるもののトップは

「ともに老後を生きていくパートナーとしての役割」男女ともに6～7割

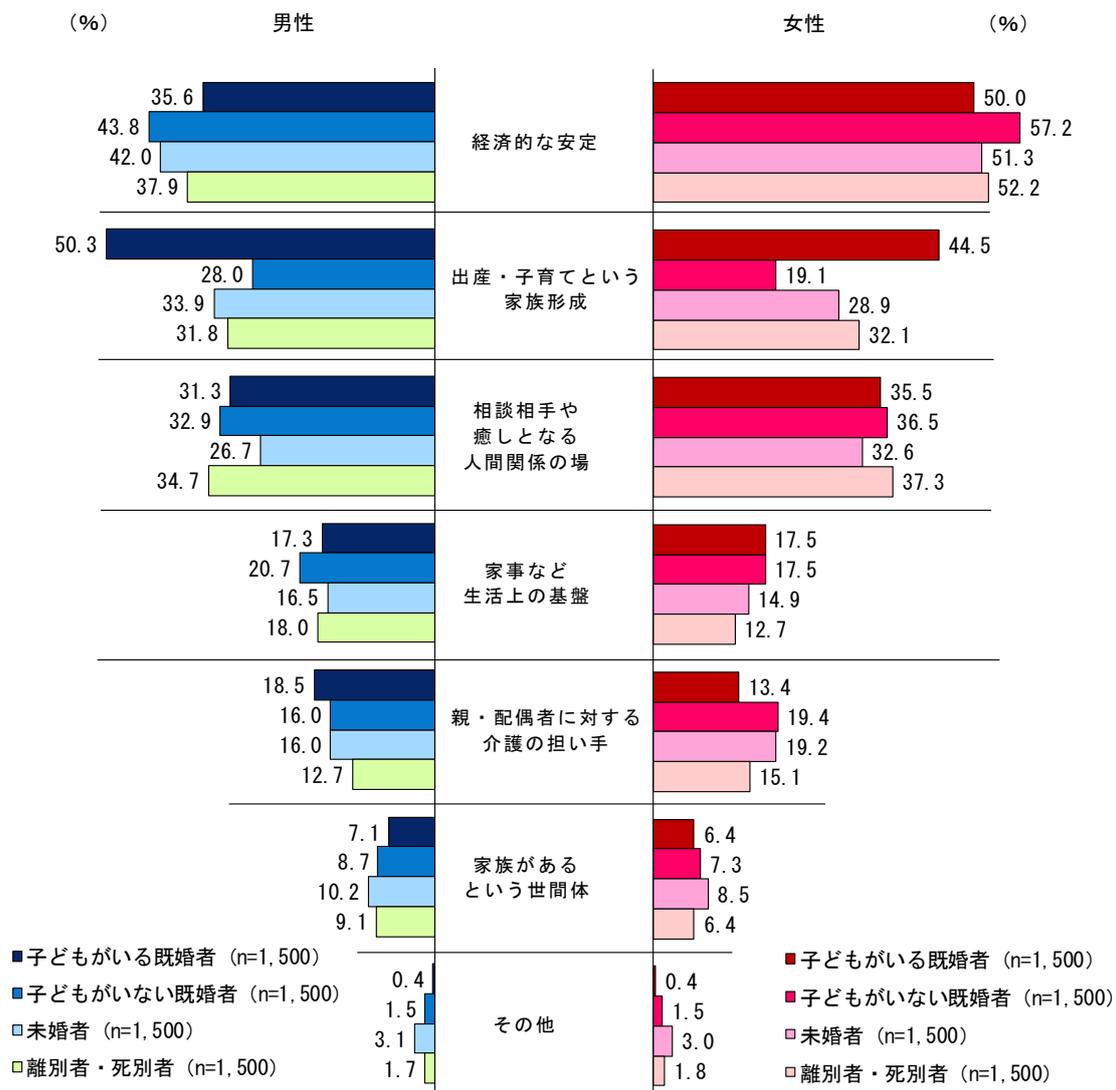
### ➤ 長寿化・未婚化が進む中で、今後結婚に最低限求められる役割

40～64歳の男女に、長寿化・未婚化が進む中で、今後結婚に最低限どのような役割が求められると思うかをたずねたところ、子どもがいる既婚男性では「出産・子育てという家族形成」の割合が最も高く50.3%ですが、子どもがいない既婚男性や未婚男性、離別・死別男性ではいずれも約3割にとどまり、「経済的な安定」が約4割と最も高くなっています。

女性では、子どもの有無にかかわらず「経済的な安定」が5～6割と最も高くなっており、特に子どもがいない既婚女性では57.2%となっています。子どもがいる既婚女性では「出産・子育てという家族形成」が44.5%で続きます。

また、「相談相手や癒しとなる人間関係の場」が男性約3割・女性3～4割となっており、男女ともに未婚者は他よりやや低い割合となっています（図表12）。

図表 12 長寿化・未婚化が進む中で、今後結婚に最低限どのような役割が求められると思うか  
(40～64歳の男女：既婚者は子どもの有無別・2つ以内で回答)



➤ 長寿化が進む中で、配偶者やパートナーに求めるものトップは

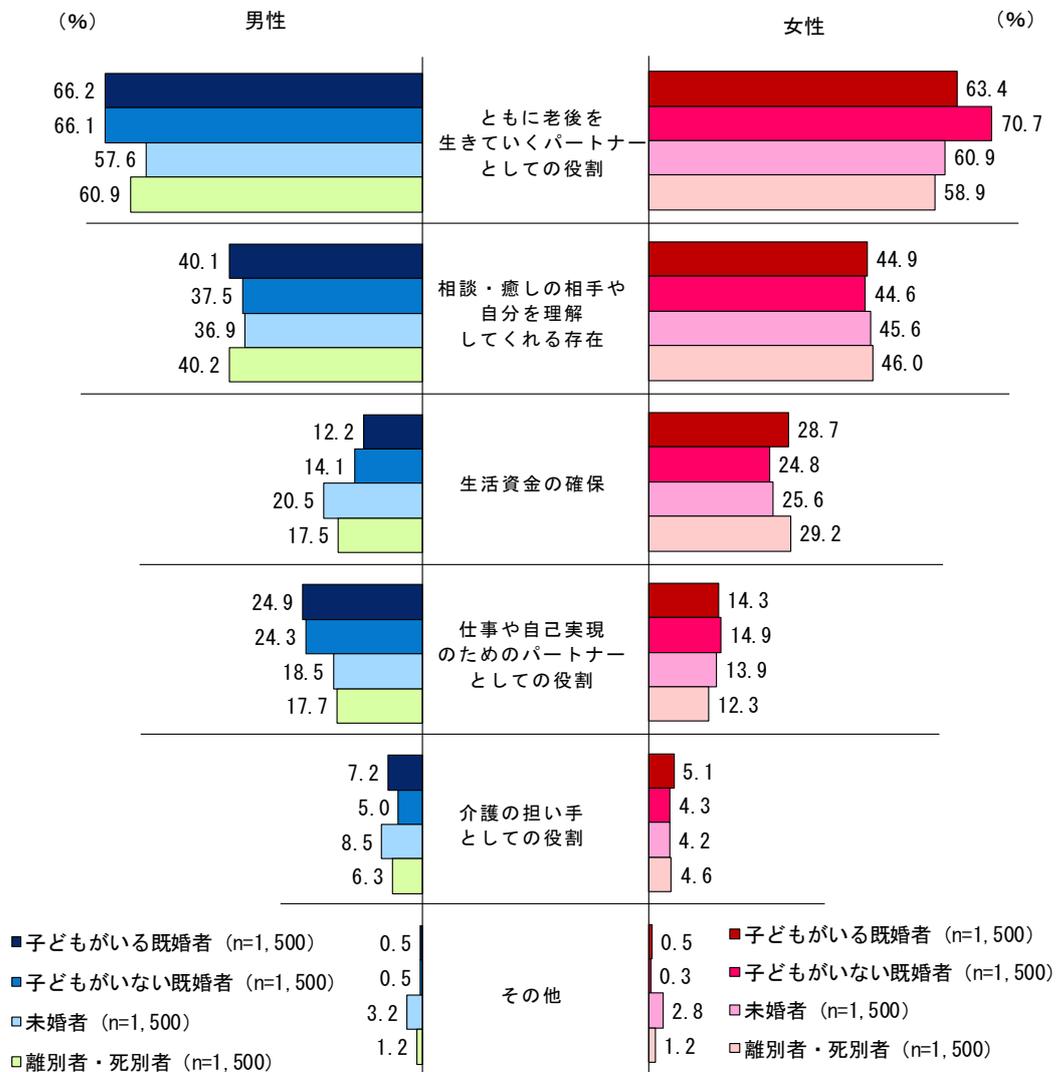
「ともに老後を生きていくパートナーとしての役割」男女ともに6～7割

長寿化が進み、定年後も一般的に20年以上は夫婦で生活することが予想される一方で、独身で長いセカンドライフを過ごす人も多くなることでしょう。

そこで、40～64歳の男女に、配偶者やパートナーに特に求めるものをたずねたところ、「ともに老後を生きていくパートナーとしての役割」が男女ともに最も高く、既婚男性では子どもの有無にかかわらず約7割、既婚女性では子どもがいる場合約6割・子どもがいない場合約7割と、男女ともに未婚者、離別者・死別者よりも高くなっています。次いで、いずれの場合も「相談・癒しの相手や自分を理解してくれる存在」が男性約4割・女性4～5割で続きます。この他、「生活資金の確保」の割合については女性が男性よりも高く、「仕事や自己実現のためのパートナーとしての役割」の割合については男性が女性よりも高くなっています(図表13)。

図表13 長寿化が進む中で、配偶者やパートナーに求めるもの

(40～64歳の男女：既婚者は子どもの有無別・2つ以内で回答)



### 3. 幸福度について

◎ 現在の幸福度

- ・ 既婚男女 8 割
- ・ 未婚と離別・死別の男性 5 割・女性 7 割

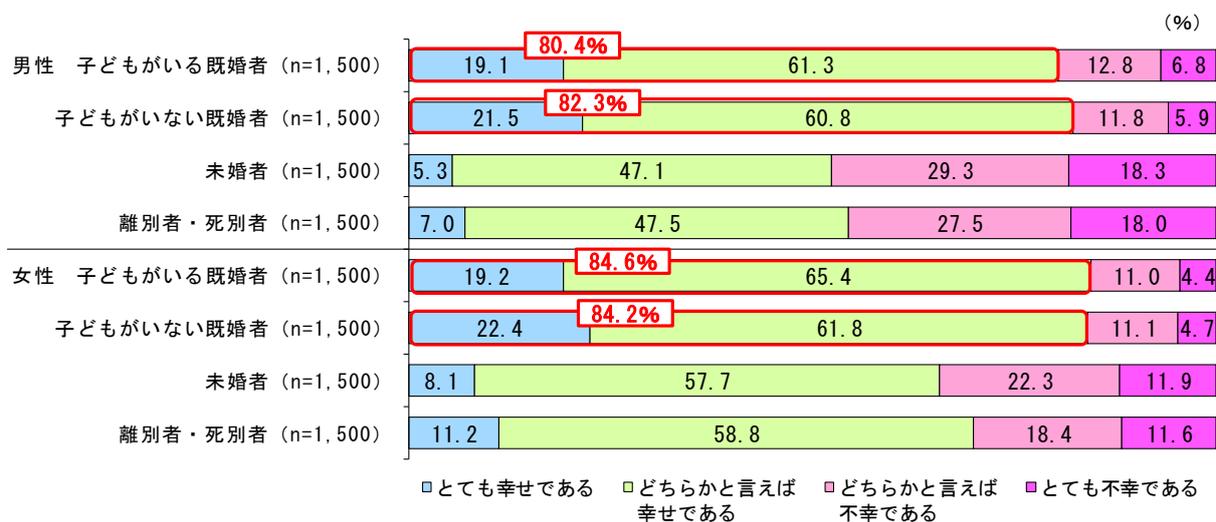
◎ 幸福度に大きな影響があるもの

既婚者は「家族との人間関係」が男性 5 割・女性 6 割でトップ

➤ 既婚者の 8 割以上が幸せと感じている

40～64 歳の男女に、現在の自分の幸福度をたずねたところ、既婚者では子どもの有無にかかわらず男女とも約 8 割が幸せ（「とても幸せである」＋「どちらかと言えば幸せである」）と感じています。また、未婚者と離別者・死別者については、男性約 5 割・女性約 7 割が幸せを感じています（図表 14）。

図表 14 現在の幸福度（40～64 歳の男女：既婚者は子どもの有無別）



➤ **幸福度に大きな影響を及ぼすもの**

40～64歳の男女に、何が自分の幸福度に大きな影響を及ぼしているかたずねたところ、影響が大きいものとして共通しているのは「健康」と「収入」です。「健康」は男性3～4割・女性4～5割、「収入」は男女ともに3～4割となっています。

そして、既婚者で最も大きな影響を及ぼすのは、男女ともに「家族との人間関係」で、子どもがいる既婚の男性54.6%・女性62.2%、子どもがいない既婚の男性51.2%・女性57.3%となっています。一方、未婚者と離別者・死別者では既婚者に比べるとその割合は低く、未婚の男性14.9%・女性24.3%、離別・死別の男性20.7%・女性38.2%となっています。

なお、未婚者と離別者・死別者は男女ともに「収入」「親しい友人・知人との人間関係」の割合が、さらに女性の場合には「仕事」についても既婚者より高くなっているのが目立ちます（図表15）。

図表15 幸福度に大きな影響があるもの（40～64歳の男女：既婚者は子どもの有無別・2つ以内で回答）

